

認定中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップに関する報告

平成25年6月
稚内市（北海道）

全体総括

計画期間；平成21年6月～平成25年3月（3年10月）

1. 計画期間終了後の市街地の状況（概況）

認定基本計画に基づき、「マチ」と「みなと」の連携を図り、南北にバランスのとれたコンパクトな市街地を形成する」という方針のもと各事業を実施した結果、中心市街地の歩行者交通量、年間主要施設入込客数が増加し、中心市街地の活性化について一定の成果が得られた。

計画の中心として位置付けていた、駅前周辺の再開発事業による複合交流施設整備を始め、駅前広場や周辺道路、港湾環境施設等を一体的に整備することにより、主要施設の集客力の向上や周辺道路の交通・歩行者環境の改善、さらに、「マチ」から「みなと」までが統一感のある景観に形成され、中心市街地の新たな“顔”として多くの市民や観光客の方々が訪れたことにより、複合交流施設周辺においては、徐々にではあるが、整備前とは違う人の流れを創出している。

しかしながら、中心市街地地区の空き店舗は、平成19年度の40店舗から平成24年度で34店舗と改善されたものの、一方では、空き家や空き地が増加傾向にあり、当該地区の活性化については、形となって目に見える状況にまでは至っていない。

また、厳しい経済状況と市全体の人口減少に歯止めがかからず、当該地区においても定住人口が減少していることから、中心市街地全体に波及しているとはいえない状況にある。

実施事業によりハード面が整備され、活性化に一定の成果が得られたことで、今後はそれを全体に波及させるべく、地価等の問題もあるが、さらに「中心市街地に人を呼び込む・住ませる」ための事業・取組が必要であり、民間と行政が連携し、より一層の中心市街地の活性化を図っていく。

2. 計画した事業は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか（個別指標毎ではなく中心市街地の状況を総合的に判断）

【進捗・完了状況】

概ね順調に進捗・完了した 順調に進捗したとはいえない

【活性化状況】

かなり活性化が図られた
 若干の活性化が図られた
活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）
活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

【詳細を記載】

基本計画に記載された全 44 事業のうち 42 事業は遅延なく実施することができ、当初の予定通り進捗、完了することができた。

市の情勢の変化や経済状況の悪化などもあり、商業核店舗の建て替え事業及び居住環境に関するハード事業の 2 事業については実施できておらず、稚内市全体の人口が減少したこともあり、指標としていた定住人口は目標値に達していない。未実施事業については、今後の当該地区の商店街の方向性を含め、検討が必要であると考えている。

しかし、全体としては上記「1.」でも述べたように活性化に関して一定の成果が得られたと考えられ、実施した事業では「稚内駅前地区第 1 種市街地再開発事業」を始めとする周辺の一体的整備事業が完了したことにより、映画館、JR 駅舎、道の駅を含む複合交流施設が稚内市の新しい“顔”として誕生し、中心市街地の活性化に繋がっている。

3. 活性化が図られた（図られなかった）要因（稚内市としての見解）

活性化が図られた要因としては、再開発事業による複合交流施設整備（映画館、バスターミナル、高齢者住宅、JR 駅舎）を始め、地域交流センターや道の駅、駅前広場・交差点の整備、さらに連動してみなと駐車場、緑地整備を行うなど、駅周辺を民間・行政が連携し一体的に整備することにより、映画館のある娯楽施設というだけではなく、市民のふれあいコミュニティや交通の結節点という機能が加わった施設が誕生したことがあげられる。

この一連の整備事業は「駅周辺が生まれ変わる」「稚内市に映画館が復活する」など市民の方々の注目度が高い事業であり、施設を含めた駅周辺が稚内市の新しい“顔”として多くの市民や観光客の方々に認識・利用されていることが活性化の要因となっている。

4. 中心市街地活性化協議会として、計画期間中の取組を振り返ってみて（協議会としての意見）

【活性化状況】

かなり活性化が図られた

若干の活性化が図られた

活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）

活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

【詳細を記載】

駅周辺を一体的に整備し、中心市街地に新たな拠点となる施設が誕生したことで、空き店舗の利活用も僅かではあるが増加し、また、定期的なイベントの開催や公共交通機関の利便性の向上により、歩行者交通量や主要施設入込客数が増加したことについては、一定の成果があったと考えられるが、中心市街地の商店街などへ波及するまでには至っていない。

また、市全体の人口減少や計画している“まちなか団地整備事業”が完了していないこともあり、指標にしている定住人口は、結果として目標値を下回っている状況にある。

今後は、中心市街地全体への賑わいづくりをより一層進めるにあたり、市民・観光客の方々に来訪の機会を増やしてもらうため、複合交流施設、フェリーターミナル、副港市場等の主要施設間の二次交通の利便性・回遊性の向上や、居住環境を整備するための賃貸住宅向けソフト事業の展開等、これらの活性化に資する事業を商店街や民間事業者、行政等が連携・協

かし、取り組む必要がある。

5. 市民からの評価、市民意識の変化

かなり活性化が図られた

若干の活性化が図られた

活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）

活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

中心市街地における市民意識調査(平成24年度稚内市実施)

平成24年度に実施した「中心市街地における市民調査」では設問(1)について「そう思う」という回答が5割、「変わらない・そう思わない」という回答が合わせて5割という結果になった。

設問(2)については7割が「そう思う」と回答しており、上記「3.」のとおり新たに中心市街地に拠点となる施設が誕生したことで、計画以前の中心市街地より魅力を感じていると評価が得られたといえる。

設問(3)の回答では「そう思う」が6割、「変わらない」の回答が4割と、駅前周辺の整備により、交通・歩行環境を向上させたことがこの評価に結び付いたといえる。

設問(4)の回答は設問(1)の回答と同様にハード整備事業だけではなく、ソフト事業の面からも「賑わいの創出・行きたいと思うまちづくり」をさらに推進させていく必要があると示唆されている。

この調査の結果から、ハード的な部分での魅力あるまちづくりについては、一定の成果はあったものの、中心市街地全体に波及しているとはいえず、今後もハード・ソフトの両面から活性化に資する事業・施策を検討していく必要があると考えられる。

設問(1)以前より、中心市街地に賑わいがあると思う

項目	割合
そう思う	50%
変わらない	41%
そう思わない	9%

設問(2)以前より、中心市街地に魅力があると思う

項目	割合
そう思う	68%
変わらない	23%
そう思わない	9%

設問(3)以前より、中心市街地の交通環境、歩行環境が良くなった。

項目	割合
そう思う	59%
変わらない	41%
そう思わない	0%

設問(4)以前より、中心市街地に行く機会が増えた、行きたいと思う。

項目	割合
そう思う	55%
変わらない	41%
そう思わない	4%

6 . 今後の取組

本計画により中心市街地の活性化に一定の効果があったものの、上記でも述べたように、中心市街地全体に波及しているとはまだ言える状況ではない。依然として定住人口の減少や商店街の空き店舗の利活用などの問題があることから、今後も商業者自らの取り組みは基より、民間・行政も連携し、どのような中心市街地を目指すか、これまで実施してきた内容と今後の取り組みのビジョンについて引き続き議論を重ねながら進めていく必要がある。

(参考)

各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
「街歩きが楽しいマチ」づくり	歩行者交通量	938人 (H19)	1,079人 (H24)	1,282人	H24.10	A
「住みたい・住み続けたいマチ」づくり	定住人口	2,576人 (H19)	2,584人 (H24)	2,240人	H24.10	C
「人が集まるマチ」づくり	年間主要施設入込数	240,900人 (H19)	427,100人 (H24)	645,197人	H25.3	A

注) 達成状況欄 (注: 小文字の a、b、c は下線を引いて下さい)

A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)

a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)

B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

b (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

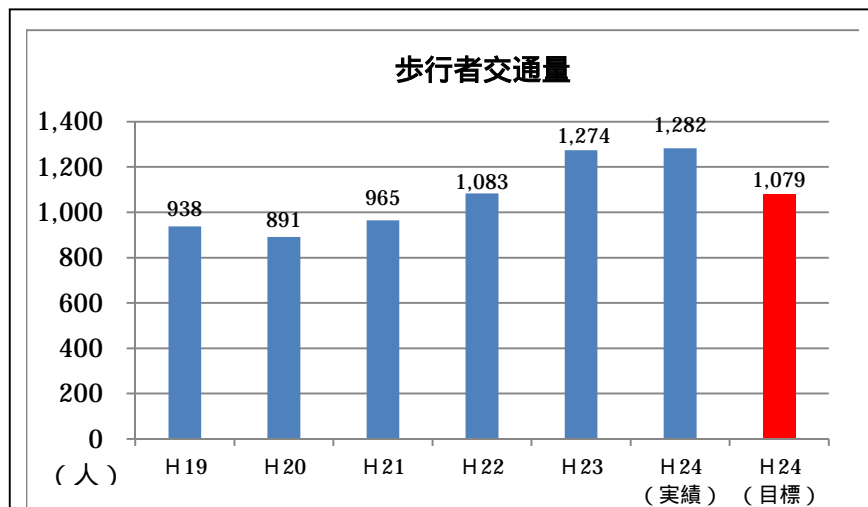
c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

個別目標

目標1「まち歩きが楽しいマチ」づくり

「歩行者交通量」 目標設定の考え方基本計画 P80～P86 参照

1. 目標達成状況の総括



年	(単位)人
H19	938 (基準年値)
H20	891
H21	965
H22	1,083
H23	1,274
H24	1,282 (実績)
H24	1,079 (目標値)

調査方法； 歩行者通行量調査

調査月； 毎年6月～9月

調査主体； 稚内市（平成23年度より(株)まちづくり稚内）

調査対象； 中心市街地来訪者

歩行者交通量は目標値を上回ることができた。

要因としては稚内駅前地区第1種市街地再開発事業によって新たな拠点として複合交流施設が整備されたことがあげられる。施設には映画館や飲食物販店舗、地域交流センターといった集客機能が設備され、同時に駅前広場、周辺道路を一体的に整備したことにより、歩行環境向上は基より街路灯や遊歩道の配色を駅施設の配色に合わせ、「マチ」から「みなと」までを統一感のある景観に形成するなど、単独の事業だけでは不可能な、一体的に事業を実施したからこそ生まれる相乗効果が、目標達成に寄与したといえる。

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

・稚内駅前地区第1種市街地再開発事業（稚内駅前地区市街地再開発組合）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等） 平成20年度～平成23年度
事業開始・完了時期	平成20年度～平成23年度
事業概要	「マチ」と「みなと」が一体となった魅力ある都市構造の形成に向けて、JR稚内駅周辺を「複合交流施設（駅舎・交流施設・住宅整備等）」として、交通・情報・観光・暮らしの総合的な拠点として整備する。
目標値・最新値	目標値：1,079人（うち、主要施設の日利用者数による歩行者数820人） 最新値：1,282人
達成状況	目標達成

達成した（出来なかった）理由	本事業は平成 22 年度に第一期工事が完了、平成 23 年度に第二期工事が予定通り完了し、新たな拠点として誕生したことにより中心市街地の集客効果と回遊性が向上したため。
計画終了後の状況（事業効果）	賑わい施設、交通の拠点となり、稚内市の新たな“顔”として、多くの方々に利用されている。
事業の今後について	実施済み

3.5.13 北浜通（稚内市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画） 平成 21 年度～平成 23 年度
事業開始・完了時期	平成 21 年度～平成 23 年度
事業概要	駅前交差点である北浜通（2 車線）と国道 40 号（4 車線）との車線接続が不整形であり、自動車・歩行者通行の安全性が確保されていないことから、この度の駅前広場整備に合わせて不整合な交差点を解消整備する。
目標値・最新値	目標値：1,079 人 最新値：1,282 人
達成状況	目標達成
達成した（出来なかった）理由	本事業により駅前交差点周辺の歩行環境が向上し、歩行者の回遊性が高まったため。
計画終了後の状況（事業効果）	直交 4 差路の交差点形成と歩道整備により、自動車及び歩行者の安全性確保され「マチ」から「みなと」への歩行者の回遊性が高まっている。
事業の今後について	実施済み

駅前広場整備事業（北海道）

支援措置名及び支援期間	街路事業 平成 19 年度～平成 23 年度
事業開始・完了時期	平成 19 年度～平成 23 年度
事業概要	J R 駅舎の新築に伴い、駅前広場の拡充整備を行う。
目標値・最新値	目標値：1,079 人（うち、ソフト各種事業参加者による歩行者数 30 人） 最新値：1,282 人
達成状況	目標達成
達成した（出来なかった）理由	本事業により駅及びバスターミナルの利便性が向上し、さらに、「マチ」と「みなと」への歩行空間が確保されたため回遊性が向上したことがあげられる。

計画終了後の状況（事業効果）	駅及びバスターミナル利用者の円滑な交通処理と利便性、安全性の向上が図られる。また、「マチ」～「みなと」への豊かな歩行者空間が確保されたことから、中心市街地への回遊性が高まり、活性化に寄与している。
事業の今後について	実施済み

・ 国道 40 号整備事業（国）

支援措置名及び支援期間	道路事業 平成 21 年度～平成 22 年度
事業開始・完了時期	平成 21 年度～平成 22 年度
事業概要	再開発施設と連携する歩道整備により、バリアフリー対応の一体感のある歩行者空間を確保し、車両及び歩行者の安全性の向上を図る。
目標値・最新値	目標値：1,079 人 最新値：1,282 人
達成状況	目標達成
達成した（出来なかった）理由	本事業によって他の道路整備事業と同様に歩行環境・回遊性の向上が図られたため。
計画終了後の状況（事業効果）	再開発ビルに接する歩道の高質整備を始め、周辺道路の一体的整備により歩行者の安全と快適性が高まり、一層、回遊性が高まった。
事業の今後について	実施済み

・ 中心市街地周遊動線調査（稚内市）

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	平成 22 年度実施
事業概要	集客力の大きい稚内駅前や副港市場、中央商店街、北埠頭、中央埠頭地区を周辺にある歴史的建造物や空き地の利用を絡めて、有機的にネットワーク化し、観光客や市民の周遊する動線計画を実現化するための仕組みづくりや手順の調査検討を行い、中心市街地内の散策路整備の方針整理を行う。
目標値・最新値	目標値：1,079 人 最新値：1,282 人
達成状況	目標達成
達成した（出来なかった）理由	この調査に基づき、歩行環境・回遊性を向上させるための調査・検討を行い、他の事業と相まって総合的効果が得られたため。

計画終了後の状況（事業効果）	この調査に基づき、推奨ルートとして3つのコースの指定と、回遊性を高めるため、歩道整備や案内サイン・休憩機能等の整備を進めて、より一層、歩行者の回遊性が高まった。
事業の今後について	実施済み

・賑わい再生拠点施設整備事業（株稚内駅ビル開発）

支援措置名及び支援期間	戦略的中心市街地商業等活性化事業補助金 平成 21 年度及び平成 23 年度
事業開始・完了時期	平成 21 年度及び平成 23 年度実施
事業概要	複合交流施設として整備される再開発ビル内に商業床を平成 23 年度で取得し飲食・物販テナントを導入する。
目標値・最新値	目標値： 1,079 人（うち、映画館の日利用者数による歩行者数 65 人 道の駅の日利用者数による歩行者数 132 人） 最新値： 1,282 人
達成状況	目標達成
達成した（出来なかった）理由	映画館、飲食・物販店舗、さらには道の駅のオープンにより、施設来訪者が増加し歩行者交通量の増加に寄与したため。
計画終了後の状況（事業効果）	平成 22 年度に映画館がオープン、平成 24 年度には飲食・物販店舗、道の駅のオープンにより、集客力が高まっている。
事業の今後について	実施済み

・地域交流センター（稚内市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画） 平成 23 年度
事業開始・完了時期	平成 23 年度完了
事業概要	再開発ビル内に、公共床として、吹き抜けのアトリウムや、くつろぎ・憩いの空間としての多世代交流ロビー、子供向けプレイセンター、まちなか情報コーナー、町内会活動・研修会議室等の施設機能を整備する。
目標値・最新値	目標値：1,079 人（うち、地域交流センターの日利用者数による歩行者数 32 人） 最新値：1,282 人
達成状況	目標達成
達成した（出来なかった）理由	施設にくつろぎの場、市民交流の場を設けたことで、施設来訪者が増加し歩行者交通量の増加に寄与したため。
計画終了後の状況	地域交流センターの整備により、賑わい創出の場、市民コミュニティ

況（事業効果）	ーの場として多くの方々に利用されている。
事業の今後について	実施済み

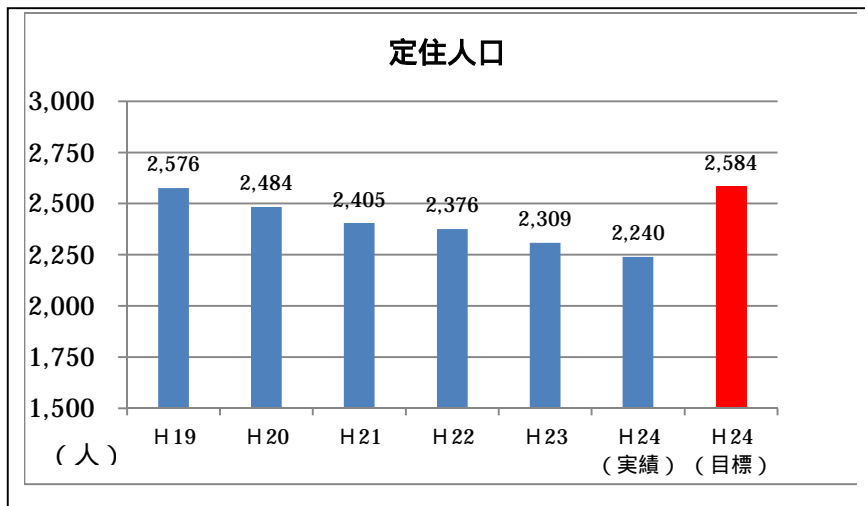
3. 今後について

目標値は達成することができたが、さらなる活性化を図るため、今後は、整備された複合交流施設を拠点として、商店街にも活性化を波及させていくことを念頭に、目標である「まち歩きが楽しいマチ」を推進していき、中心市街地全体の活性化・賑わいにつなげていくため、民間と行政が連携し取り組みをしていく必要がある。

目標2「住みたい・住み続けたいマチ」づくり

「定住人口」 目標設定の考え方基本計画 P87～P90 参照

1. 目標達成状況の総括



年	(単位)人
H19	2,576 (基準年値)
H20	2,484
H21	2,405
H22	2,367
H23	2,309
H24	2,240 (実績)
H24	2,584 (目標値)

調査方法； 中心市街地区域での住民基本台帳登録人口

調査月； 毎年10月取りまとめ

調査主体； 稚内市

調査対象； 中心市街地の居住者

【総括】

目標としていた定住人口を達成できず、基準値も下回る状況となっている。

複合交流施設における高齢者住宅整備等の事業は完了したが、まちなか団地の整備事業については、平成27年度までの計画予定であることから、「まちなか居住推進」に係る定住人口増加への起因については現在のところ至っていない。

稚内市全体の定住人口は、予想を上回る減少傾向にあり、その中でも中心市街地の減少の割合は他の地域と比べても高く、歯止めがかからなかったといえる。

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

・ 稚内駅前地区第1種市街地再開発事業（稚内駅前地区市街地再開発組合）

支援措置名及び 支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等） 平成20年度～平成23年度
事業開始・完了 時期	平成20年度～平成23年度
事業概要	再開発ビルの第2期整備により3～5階に高齢者向け賃貸住宅36戸、 グループホーム18室を整備する。
目標値・最新値	目標値： 54人 最新値： 47人
達成状況	目標を達成していない。
達成した（出来 なかった）理由	整備した高齢者向け賃貸住宅が全室入居という状況になっていない ため。
計画終了後の状 況（事業効果）	医療・交通・商業機能が整備されている中心市街地に居住施設を整 備することにより、まちなか居住を希望する高齢者等の住み替えの誘 導を図ることに成功した。
事業の今後につ いて	実施済み

・ まちなか団地整備事業（稚内市）

支援措置名及び 支援期間	社会資本整備総合交付金（地域住宅計画に基づく事業） 平成24年度～平成27年度
事業開始・完了 時期	平成24年度～平成27年度
事業概要	中心市街地活性化区域と同一の区域である「まちなか居住推進区域」、 また、その南北に隣接する「まちなか居住支援区域」内に借り上げ方 式による公営住宅40戸を整備する。
目標値・最新値	目標値： 86人 最新値： 0人
達成状況	目標を達成していない。
達成した（出来 なかった）理由	事業が完了しておらず、目標が達成できていない。
計画終了後の状 況（事業効果）	事業未完了。
事業の今後につ いて	本計画終了後も「稚内市住宅マスタープラン」及び「稚内まちなか居 住推進計画」に則り、事業を推進していく。

・ 臨港地区の規制緩和（稚内市）

支援措置名及び	なし
---------	----

支援期間	
事業開始・完了時期	平成 19 年度～平成 22 年度
事業概要	J R 稚内の鉄道の港側は、臨港地区として一般の住宅建設が規制されているが、市街地との一体的な土地利用に向け、現行の分区規制を緩和・変更し、一般の住宅等の建設が可能な環境を整える。
目標値・最新値	目標値： 38 人 最新値： 0 人
達成状況	目標を達成していない。
達成した（出来なかった）理由	規制緩和・変更を行ったが、実質的にまちなか居住へとは至らなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	まちなか居住推進には結びついておらず、居住への起因にはなっていない。
事業の今後について	本計画終了後も「稚内市住宅マスタープラン」及び「稚内まちなか居住推進計画」に則り、事業を推進していく。

・まちなか居住・土地建物情報バンク事業（稚内市）

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	平成 19 年度～平成 27 年度
事業概要	「まちなか住まいの情報ポータルサイト」の構築
目標値・最新値	目標値： 38 人 最新値： 0 人
達成状況	目標を達成していない。
達成した（出来なかった）理由	インターネット等にまちなか居住に関する情報を掲載したが実質的にまちなか居住には至らなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	まちなか居住に関する情報ポータルサイトとして、中心市街地の空き地・空き家情報をとりまとめ、インターネットからの情報発信を図ったが、まちなか居住には至っていない。
事業の今後について	本計画終了後も「稚内市住宅マスタープラン」及び「稚内まちなか居住推進計画」に則り、事業を推進していく。

・まちなか住まい相談事業（稚内市）

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	平成 19 年度～平成 27 年度
事業概要	まちなか居住の推進に向けた、市民や事業者向けの総合相談窓口の充

	実を図る。
目標値・最新値	目標値： 38人 最新値： 0人
達成状況	目標を達成していない。
達成した（出来なかった）理由	他の事業同様に実質的に居住にはつながらなかったため。
計画終了後の状況（事業効果）	まちなか居住の推進のため、相談窓口を開設し対応してきたが、他の地区と比べて、依然として地価が高いなどの問題もあり居住の推進に至らなかった。
事業の今後について	本計画終了後も「稚内市住宅マスタープラン」及び「稚内まちなか居住推進計画」に則り、事業を推進していく。

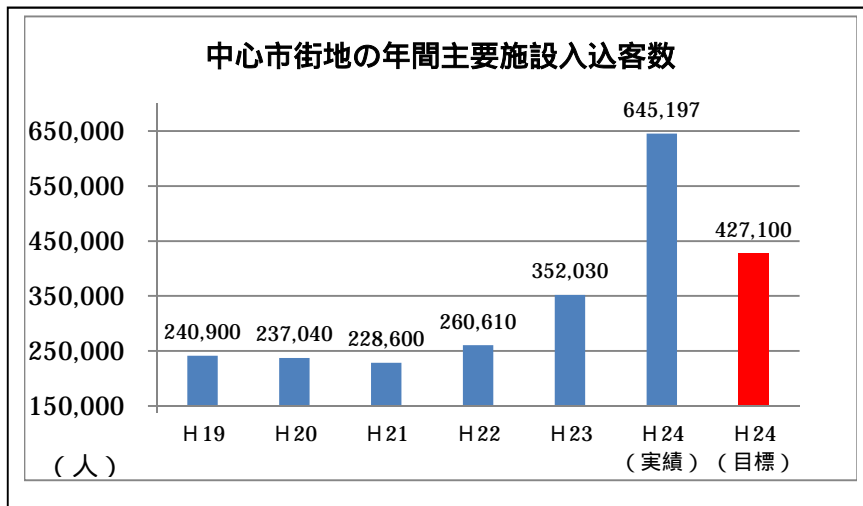
3. 今後について

平成24年度までに完了を予定していた事業に関しては、全て実施・完了することができたが、定住人口の目標に届かず、基準値も下回った。市全体の定住人口も予想以上に減少しており、他の地区と比べ中心市街地は減少の割合が高い傾向にある。さらなる活性化を図るため、未完了の事業の実施や居住環境を整え、減少傾向にある定住人口の減少を改善していくことが今後の大きな課題である。本計画終了後も「稚内市住宅マスタープラン」及び「稚内まちなか居住推進計画」に則り、関連事業を推進していく。

目標3「人が集まるマチ」づくり

「中心市街地の年間主要施設入込客数」 目標設定の考え方基本計画 P91～P93 参照

1. 目標達成状況の総括



年	(単位)人
H19	240,900 (基準年値)
H20	237,040
H21	228,600
H22	260,610
H23	352,030
H24	645,197 (実績)
H24	427,100 (目標値)

調査方法； 各施設の入込客数

調査月； 毎年3月末時点調査4月取りまとめ

調査主体； 関係施設

調査対象； 複合交流施設入館者数

【総括】

中心市街地の年間主要施設入込客数は目標値を上回ることができた。

上記の「目標 1」でも述べたように再開発事業を始めとする駅周辺の一体的整備が目標達成の大きな要因としてあげられる。

整備された複合交流施設は JR 稚内駅と併設されており、本市にとって 22 年ぶり復活した映画館や、ふれあいコミュニティとして様々なイベントが行える地域交流センター、さらに、道内 114 番の登録となった道の駅が多くの方々に利用されている。また、駅前広場と一体的に整備されたイベント広場では、この空間を活用して市民協働による多彩なイベントが開催されていて、多くの方々が訪れる新しい賑わいの拠点となっている。

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

・稚内駅前地区第 1 種市街地再開発事業（稚内駅前地区市街地再開発組合）

支援措置名及び支援期間	再掲 5P 参照
事業開始・完了時期	再掲 5P 参照
事業概要	再掲 5P 参照
目標値・最新値	・JR 及びバスターミナル利用者 目標値： 222,200 人 最新値： 227,079 人
達成状況	目標達成
達成した（出来なかった）理由	当初の予定通り、平成 23 年度に事業が完了し、同時に実施していた周辺整備との相乗効果もあり多くの方々に利用されたため。
計画終了後の状況（事業効果）	賑わい施設、交通の拠点となり、稚内市の新たな顔として、多くの方々に利用されている。
事業の今後について	実施済み

・賑わい再生拠点施設整備事業（株稚内駅ビル開発）

支援措置名及び支援期間	再掲 8P 参照
事業開始・完了時期	再掲 8P 参照
事業概要	再掲 8P 参照
目標値・最新値	・映画館の利用者 目標値： 58,000 人 最新値： 60,455 人 ・道の駅の利用者 目標値： 118,100 人 最新値： 242,870 人
達成状況	目標達成

達成した（出来なかった）理由	当初の予定通り、平成 22 年度の映画館オープン、平成 24 年度の道の駅オープンなど周辺整備との相乗効果もあり両施設とも多くの方々に利用されているため。
計画終了後の状況（事業効果）	稚内市に 22 年ぶりに復活した映画館を始め、道の駅、飲食物販施設と現在も多くの方々が足を運んでいる。
事業の今後について	実施済み

・地域交流センター（稚内市）

支援措置名及び支援期間	再掲 8P 参照
事業開始・完了時期	再掲 8P 参照
事業概要	再掲 8P 参照
目標値・最新値	・情報コーナー、多世代交流ロビー、キッズルーム 市民活動室の利用者 目標値： 28,800 人 最新値： 114,793 人
達成状況	目標達成
達成した（出来なかった）理由	複合交流施設にくつろぎの場、市民交流の場を設けたことで、施設来訪者が増加したため。
計画終了後の状況（事業効果）	市民の交流の場、交通の結節点、情報発信の拠点として多くの方々に利用されている。
事業の今後について	実施済み

・地域情報システム整備（稚内市）

支援措置名及び支援期間	平成 23 年度（都市再生整備計画）
事業開始・完了時期	平成 23 年度
事業概要	複合交流施設内地域交流センターに、地域情報を提供するための情報端末やインターネットカフェ、無線 LAN（Wi-Fi）等を整備する。
目標値・最新値	記載なし
達成状況	
達成した（出来なかった）理由	情報の発信拠点として大型モニター、タッチパネル式情報端末が整備されており、観光案内所も併設されているため、多くの観光客の方々

	が訪れており、さらに、貸出パソコンや無線LANが無料で使用でき、多くの方々に利用されているため、この事業が地域交流センターの利用者の増加に寄与したと言える。
計画終了後の状況（事業効果）	情報端末や大型モニターによる地域・観光情報の発信やインターネット利用環境を提供しており、地域交流センターは、より来訪者に利便性の高い施設となっている
事業の今後について	実施済み

3. 今後について

今後は活性化を駅周辺だけではなく中心市街地全体にも波及させていくために、複合交流施設を含めた周辺整備を単なるハード整備だけで終わらせるのではなく、今後も市民や観光客の方々が繰り返し訪れたいような中心市街地を創出し、さらなる活性化を目指し取り組みをしていく必要がある。

